

## 桧股国有林林業専用道について

### ① 計画概要(全体)について

規 格	自動車道 2 級	
延 長	1,705m	
幅 員	3.5m	
計画荷重	14 t	
最小半径	12m	
最急勾配	14.0%	
平均勾配	7.2%	
切取土量	21,187.4m <sup>3</sup>	【実行】 24,064m <sup>3</sup>
盛 土 量	7,648.5m <sup>3</sup>	6,311m <sup>3</sup>
残 土 量	11,420.5m <sup>3</sup>	12,928m <sup>3</sup>

### ② 路線選定について

起点は車両が双方からスムーズに進入できるよう、林道桧股線のヘアピン箇所を選定し、路線は溪流沿いの急傾斜地を避け、山腹斜面の中腹を通り、縦断勾配はB Pから1,240mまで上り約8%、それ以降は下り約5%の勾配で、終点は将来計画で、民有林側から取り付け可能な緩斜面を選定。

### ③ 開設単価について

H25年度	開設延長	444m	40,425,000円	
H26年度	開設延長	700m	41,040,000円	
H27年度	開設延長	561m	22,032,000円	
	計 開設延長	1,705m	103,497,000円	@ 60,702円/m

#### ④ 構造物について

- ・ 補強土壁工 9箇所

番号	壁 高	天端延長	壁 面 積	備考
2号地	1.2～3.0m	33.8m	95.7m <sup>2</sup>	図面添付
3号地	0.6～1.8m	13.8m	31.3m <sup>2</sup>	
4号地	1.2～3.0m	15.8m	44.5m <sup>2</sup>	
5号地	0.6～2.4m	13.8m	37.3m <sup>2</sup>	
6号地	1.2～3.6m	13.8m	42.9m <sup>2</sup>	
8号地	1.2～4.2m	19.5m	63.2m <sup>2</sup>	
9号地	1.2～3.6m	17.6m	54.8m <sup>2</sup>	
10号地	1.2～3.6m	21.5m	66.6m <sup>2</sup>	
11号地	0.6～3.0m	27.5m	72.9m <sup>2</sup>	

※2号補強土壁工施工単価 17,181円/m<sup>2</sup>(直接工事費)

#### ⑤ 排水施設について

- ・ 木製路面排水工
- ・ グレーチング横断溝(L型40-A、L型30-A)
- ・ コンクリート土のう積  
(421.5m付近、526.0m付近、1,011.9m付近、1,183.0m付近)
- ・ コルゲートパイプ暗渠工(562.8m付近)
- ・ 鉄筋コンクリートフレーム

#### ⑥ 路盤工

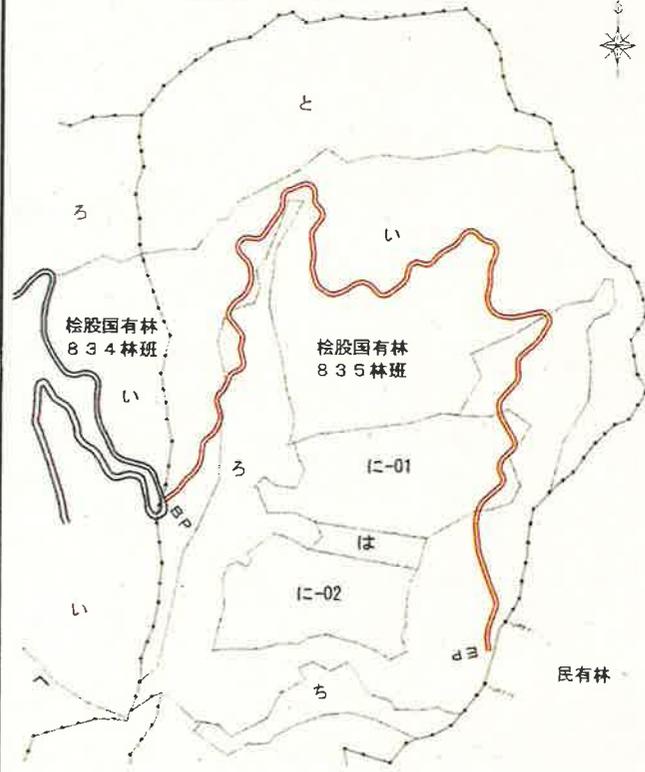
- ・ 表層工 砂利敷込(RC-40 t=10)

#### ⑦ 木材集積場(残土処理場)について

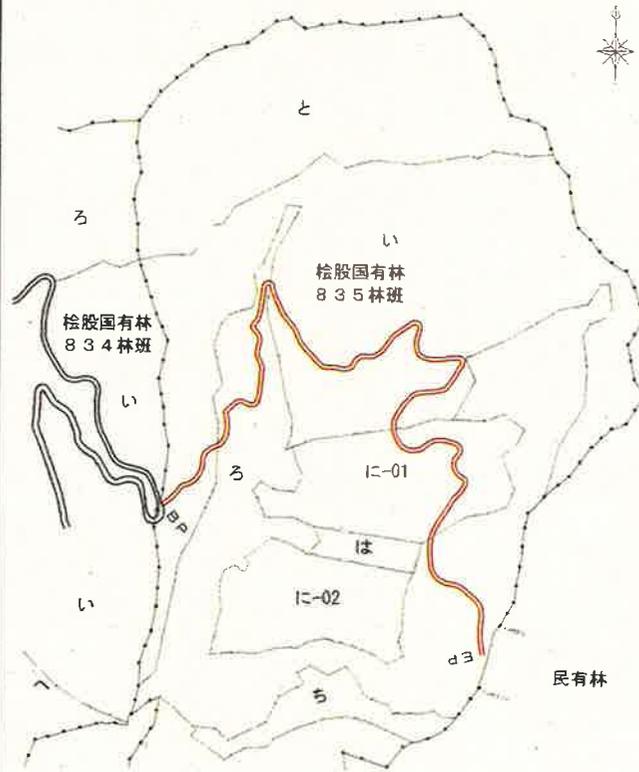
- ・ 1号地(施工地内) 残土受入容量: 3,723m<sup>3</sup> 【実行】 1,907m<sup>3</sup>
- ・ 2号地(施工地外) 残土受入容量: 13,704m<sup>3</sup> 12,281m<sup>3</sup>
- ・ NO.560付近拡幅 1,072m<sup>3</sup> 1,072m<sup>3</sup>
- 計 18,499m<sup>3</sup> 15,260m<sup>3</sup>

# 松股林業専用道のルート比較検討表

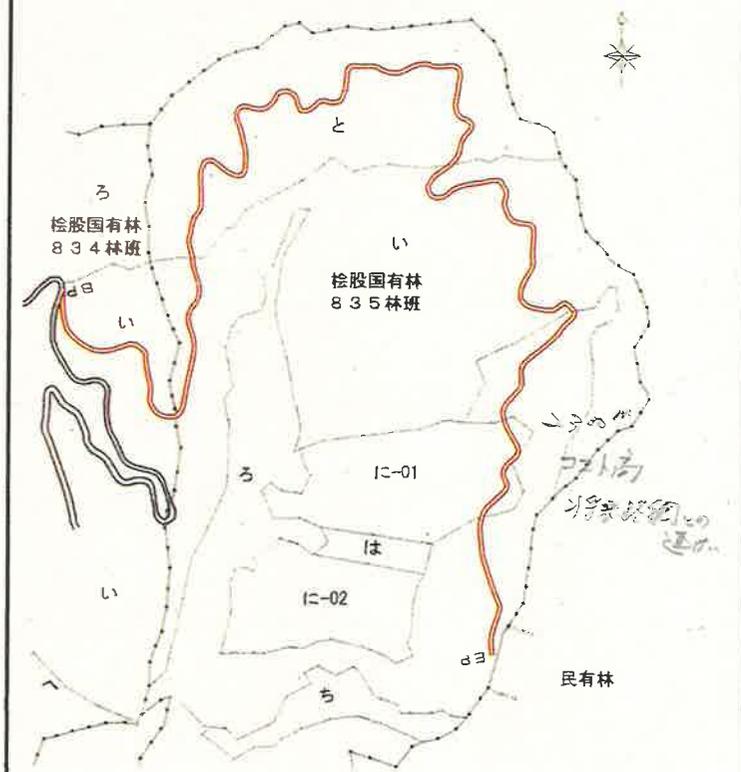
○ 第1案平面図



第2案平面図



第3案平面図



- ・起点は村道のヘアピン箇所、終点は将来計画で取付け可能な緩斜面である。
- ・路線の全延長は1700mで、山腹斜面の中腹を通り一部緩斜面区間を通過できる。
- ・縦断勾配はBP～1240まで上り8%、それ以降は下り5%の勾配である。
- ・起点取付けは、車両が双方からスムーズに進入できる。
- ・集水面積は全体的に広くはなく、開渠排水施設(一部暗渠)で対応できる。
- ・構造物は凹地等である程度必要となる。
- ・緩斜面で一部盛土可能な箇所があり、多少残土の発生を抑えることができる。
- ・既設道や将来計画道など路網全体の効率的な配置に沿った適切な線形である。
- ・上記の内容を検討した結果、林業専用道として最も適したルートである。

- ・起点は村道のヘアピン箇所、終点は将来計画で取付け可能な緩斜面である。
- ・路線の全延長は1420mで短くなるが、山腹斜面は溪流沿いのルートとなるために全体的に急傾斜地の通過となる。
- ・縦断勾配はBP～220まで下り8%、それ以降は上り8%の勾配である。
- ・起点取付けは、車両が双方からスムーズに進入できる。
- ・集水面積は全体的に広く、暗渠排水施設が必要である。
- ・構造物は急斜面により1,3案よりは比較的に多く必要となる。
- ・急斜面で盛土可能な箇所がなく、1,3案に比べ相当量の残土発生が見込まれる。
- ・既設道や将来計画道など路網全体の配置より下方に片寄せた線形である。
- ・上記の内容を検討した結果、第1案より劣るルートである。

- ・起点は村道の沢カーブ付近で終点は将来計画で取付け可能な緩斜面である。
- ・路線の全延長は2300mで、山腹斜面の上方を通り1,2案より緩傾斜地が通過できる。
- ・縦断勾配はBP～1180まで上り10%、それ以降は下り8%の勾配である。
- ・起点取付けは、車両が片方からしか進入できずまた取付けに擁壁が必要である。
- ・集水面積が全体的に小さく、開渠排水施設で対応できる。
- ・構造物は緩斜面により比較的に少なく、一部必要となる。
- ・緩斜面で一部盛土可能な箇所があり、残土が少なくなる。
- ・既設道と280m並走し効率的な路網の配置でない。また、既設道や将来計画道など路網全体の配置より上方に片寄せた線形である。
- ・上記の内容を検討した結果、第1案より劣るルートである。